

調査の概要

- 1 この報告書は、住民基本台帳等人口調査要綱及び報告要領に基づき、平成9年1月1日現在で調査したものである。
- 2 調査内容は、住民基本台帳法により、住民票に記載されている公帳簿上の世帯数及び人口（男・女）を、区市町村ごとに町丁（字）別、年齢各歳別に把握したものである。
- 3 住民基本台帳法の適用を除外されている者（日本の国籍を有しない者及び戸籍法の適用を受けない者）は、調査の対象としていない。
- 4 町丁（字）制を施行していない地域等については、通常用いている区画（自治会、町会名称等）によることとしたが、利島村、神津島村、御蔵島村及び青ヶ島村については、村を1つの区画とした。

凡 例

- 1 統計表及び図表の数値は、特にことわり書きのない限り、各年1月1日現在の数値を示す。
- 2 市部、町村部の区域は、過去に遡って現在の区域に組み替えて表章した。
- 3 統計表において「-」印は皆無又は該当数のないことを示し、「△」印はマイナス（減）を示す。
- 4 統計表において割合を示す数値は、少数点以下2位又は3位を四捨五入したものである。したがって、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。

この報告書についての照会は

総務局統計部人口統計課人口動態統計係

電話 5321-1111(代)

内線25-511・2

5388-2531(ダイヤルイン)

結果の概説

1 1月1日現在人口

平成9年1月1日現在における東京都の住民基本台帳人口は、11,602,642人で、前年に比べ14,916人(0.13%)の増加となっている。

調査開始(昭和32年)以来の推移をみると、55年、56年を除いて毎年増加していたものの、63年以降は減少を続けていたが、9年には10年ぶりに増加に転じた。

人口総数を男女別にみると、男子5,793,911人、女子5,808,731人であり、前年に比べ、男子は2,082人(0.04%)、女子は12,834人(0.22%)増加した。性比(女100人に対する男の数)は99.7で、前年に比べ0.2ポイント低下し、前年に引き続き100を下回っている。

地域別にみると、区部人口は7,846,823人で、前年に比べ336人(0.00%)、市部人口は3,662,487人で、14,797人(0.41%)といずれも増加となっている。一方、町村部人口は93,332人で217人(0.23%)の減少となっている。

(表1、表2、図1、統計表第1表参照)

図1 人口総数及び人口増減率の推移
(昭和32年～平成9年)

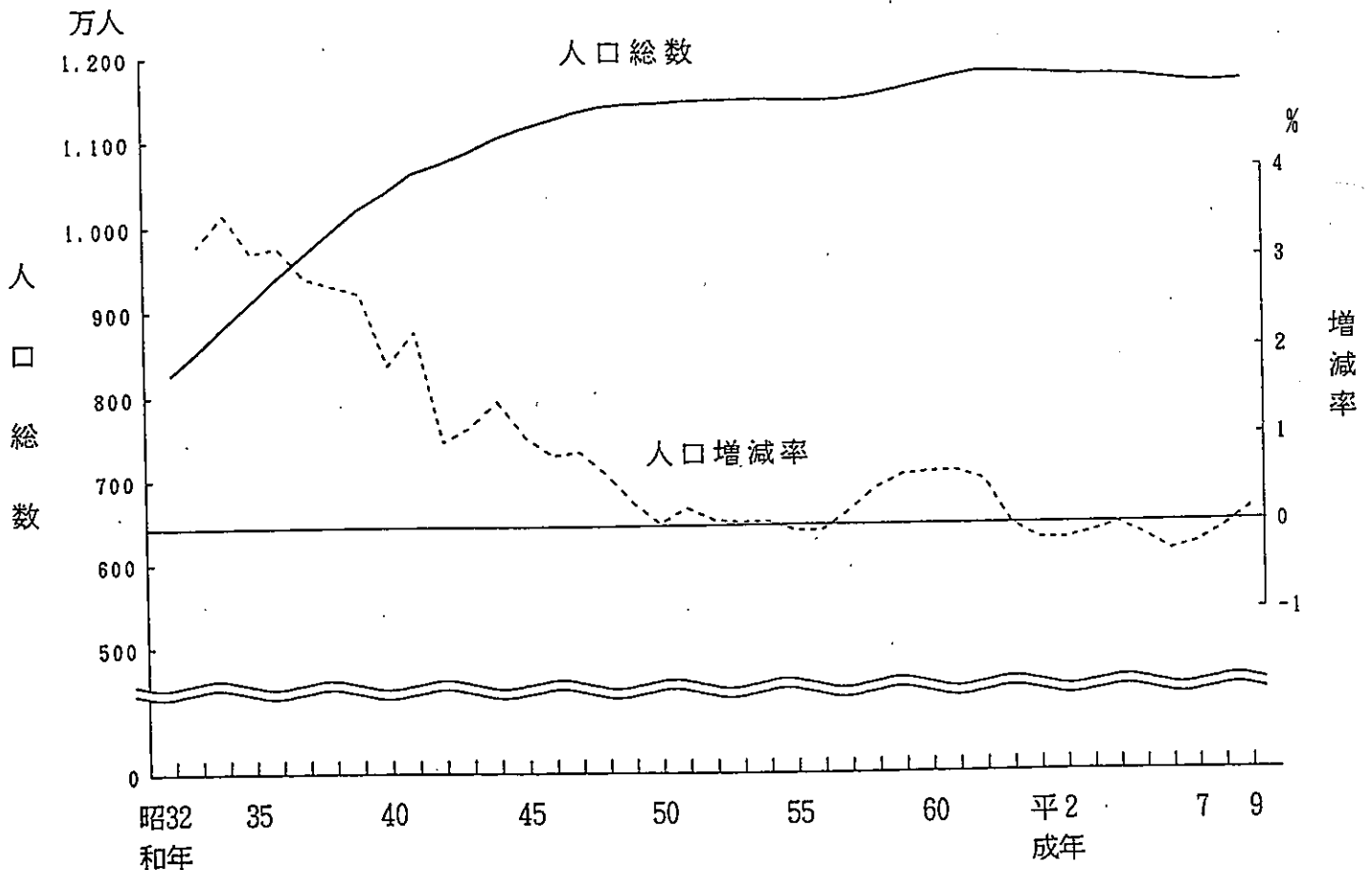


表1 人口総数及び男女別人口の推移（昭和62年～平成9年）

(単位 人、%)

年次	総数			男			女			性比 (女100人 につき男)
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	
昭和62年	11 740 896	58 581	0.50	5 905 397	32 001	0.54	5 835 499	26 580	0.46	101.2
63	11 740 361	△535	△0.00	5 908 098	2 701	0.05	5 832 263	△3 236	△0.06	101.3
64	11 718 720	△21 641	△0.18	5 897 900	△10 198	△0.17	5 820 820	△11 443	△0.20	101.3
平成2年	11 698 060	△20 660	△0.18	5 883 398	△14 502	△0.25	5 814 662	△6 158	△0.11	101.2
3	11 684 927	△13 133	△0.11	5 872 424	△10 974	△0.19	5 812 503	△2 159	△0.04	101.0
4	11 683 316	△1 611	△0.01	5 865 617	△6 807	△0.12	5 817 699	5 196	0.09	100.8
5	11 666 227	△17 089	△0.15	5 850 386	△15 231	△0.26	5 815 841	△1 858	△0.03	100.6
6	11 627 577	△38 650	△0.33	5 824 125	△26 261	△0.45	5 803 452	△12 389	△0.21	100.4
7	11 598 634	△28 943	△0.25	5 803 315	△20 810	△0.36	5 795 319	△8 133	△0.14	100.1
8	11 587 726	△10 908	△0.09	5 791 829	△11 486	△0.20	5 795 897	578	0.01	99.9
9	11 602 642	14 916	0.13	5 793 911	2 082	0.04	5 808 731	12 834	0.22	99.7

表2 地域別人口の推移（昭和62年～平成9年）

(単位 人、%)

年次	区 部			市 部			町 村 部		
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率
昭和62年	8 251 910	8 618	0.10	3 398 317	49 476	1.48	90 669	487	0.54
63	8 205 865	△46 045	△0.56	3 443 016	44 699	1.32	91 480	811	0.89
64	8 150 115	△55 750	△0.68	3 476 579	33 563	0.97	92 026	546	0.60
平成2年	8 091 701	△58 414	△0.72	3 513 779	37 200	1.07	92 580	554	0.60
3	8 045 577	△46 124	△0.57	3 546 414	32 635	0.93	92 936	356	0.38
4	8 012 523	△33 054	△0.41	3 577 677	31 263	0.88	93 116	180	0.19
5	7 969 439	△43 084	△0.54	3 603 748	26 071	0.73	93 040	△76	△0.08
6	7 913 299	△56 140	△0.70	3 620 949	17 201	0.48	93 329	289	0.31
7	7 871 159	△42 140	△0.53	3 634 040	13 091	0.36	93 435	106	0.11
8	7 846 487	△24 672	△0.31	3 647 690	13 650	0.38	93 549	114	0.12
9	7 846 823	336	0.00	3 662 487	14 797	0.41	93 332	△217	△0.23

2 年齢別人口

(1) 5歳階級別人口

人口総数を5歳階級別（カッコ内の数字は構成比）にみると、25～29歳が1,120,759人（9.66%）で最も多く、次いで、20～24歳の1,054,731人（9.09%）、45～49歳の999,692人（8.62%）の順となっている。

5歳階級別人口を地域別にみると、区部は、25～29歳が769,744人（9.81%）で最も多く、次いで、20～24歳の699,057人（8.91%）、45～49歳の675,844人（8.61%）の順となっている。市部は、20～24歳が349,372人（9.54%）で最も多く、次いで、25～29歳の345,081人（9.42%）、45～49歳の314,907人（8.60%）の順となっている。

一方、町村部は、45～49歳の8,941人（9.58%）、50～54歳の6,796人（7.28%）、40～44歳の6,472人（6.93%）の順となっている。
（表3参照）

表3 地域別、年齢（5歳階級）別人口

（単位 人、%）

年 齢	総 数	区 部	市 部	町 村 部	構 成 比			
					総 数	区 部	市 部	町村部
総 数	11 602 642	7 846 823	3 662 487	93 332	100.00	100.00	100.00	100.00
0～4歳	469 572	300 135	165 574	3 863	4.05	3.82	4.52	4.14
5～9	470 732	298 879	167 268	4 585	4.06	3.81	4.57	4.91
10～14	528 469	335 808	187 060	5 601	4.55	4.28	5.11	6.00
15～19	646 277	409 794	230 337	6 146	5.57	5.22	6.29	6.59
20～24	1 054 731	699 057	349 372	6 302	9.09	8.91	9.54	6.75
25～29	1 120 759	769 744	345 081	5 934	9.66	9.81	9.42	6.36
30～34	895 872	614 613	276 176	5 083	7.72	7.83	7.54	5.45
35～39	744 818	508 860	230 775	5 183	6.42	6.48	6.30	5.55
40～44	733 442	495 371	231 599	6 472	6.32	6.31	6.32	6.93
45～49	999 692	675 844	314 907	8 941	8.62	8.61	8.60	9.58
50～54	817 928	552 810	258 322	6 796	7.05	7.05	7.05	7.28
55～59	788 575	536 268	246 245	6 062	6.80	6.83	6.72	6.50
60～64	719 331	499 321	214 216	5 794	6.20	6.36	5.85	6.21
65～69	566 144	396 841	164 183	5 120	4.88	5.06	4.48	5.49
70～74	421 321	301 526	115 530	4 265	3.63	3.84	3.15	4.57
75～79	284 613	205 810	75 603	3 200	2.45	2.62	2.06	3.43
80～84	195 372	141 660	51 585	2 127	1.68	1.81	1.41	2.28
85～89	103 564	74 687	27 621	1 256	0.89	0.95	0.75	1.35
90歳以上	41 411	29 787	10 022	602	0.36	0.38	0.27	0.65
不詳者	19	8	11	0	0.00	0.00	0.00	0.00

(2) 10歳階級別構成比

人口総数を10歳階級別の構成比で見ると、20歳代が18.75%で最も高く、次いで、40歳代(14.94%)、30歳代(14.14%)の順となっている。

次に、10年前の構成比と比べると、0～9歳、10歳代及び30歳代では低下しており、20歳代及び40歳代以上の階級では上昇している。
(表4、図2 参照)

(3) 10歳階級別性比

性比を10歳階級別にみると、30歳代が113.1で最も高く、次いで、20歳代(111.4) 40歳代(105.6)の順となっている。

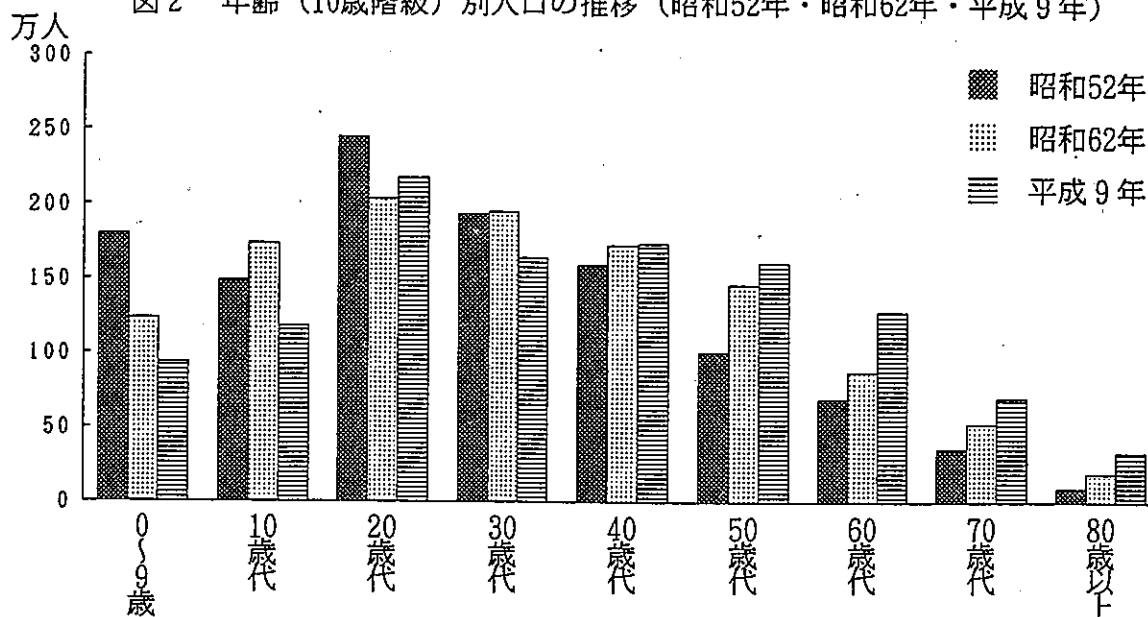
性比は50歳代で100を割り、年代が進むにつれて低くなっている。
(表4、図2 参照)

表4 男女別人口の年齢(10歳階級)別構成比及び性比の推移(52年・62年・9年)

年 齢	昭 和 5 2 年			昭 和 6 2 年			平 成 9 年			性比(女100人につき男)		
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	52年	62年	9年
総 数	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	101.3	101.2	99.7
0～9歳	15.75	16.05	15.44	10.52	10.69	10.34	8.10	8.31	7.90	105.3	104.7	104.9
10歳代	12.99	13.27	12.71	14.75	15.14	14.36	10.12	10.38	9.87	105.7	106.7	104.9
20歳代	21.44	23.02	19.83	17.33	18.78	15.86	18.75	19.79	17.72	117.6	119.9	111.4
30歳代	16.91	17.10	16.72	16.59	17.36	15.81	14.14	15.03	13.25	103.6	111.1	113.1
40歳代	13.96	13.62	14.30	14.69	14.46	14.92	14.94	15.36	14.51	96.5	98.0	105.6
50歳代	8.82	7.92	9.73	12.44	12.00	12.88	13.85	13.65	14.04	82.4	94.3	97.0
60歳代	6.13	5.57	6.69	7.50	6.54	8.48	11.08	10.48	11.68	84.2	78.0	89.5
70歳代	3.17	2.82	3.52	4.52	3.79	5.26	6.08	4.98	7.19	81.0	73.0	69.1
80歳代	0.79	0.60	0.98	1.52	1.15	1.90	2.58	1.83	3.32	62.2	61.1	54.8
90歳以上	0.05	0.03	0.07	0.14	0.08	0.20	0.36	0.20	0.52	40.1	43.7	38.1

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

図2 年齢(10歳階級)別人口の推移(昭和52年・昭和62年・平成9年)



3 年齢3区分別人口

(1) 年齢3区分別人口の推移

人口総数を年齢3区分別にみると、年少人口(0～14歳)は1,468,773人で、前年に比べ23,059人(1.55%)の減となっており、51年以降減少が続いている。人口総数に占める割合は12.66%であり、10年前の62年(17.27%)に比べ4.61ポイント低下している。

生産年齢人口(15～64歳)は8,521,425人で、前年に比べ28,522人(0.33%)の減となり、5年続けた減少となった。人口総数に占める割合は73.44%であり、10年前(73.35%)に比べ0.09ポイント上昇している。

老年人口(65歳以上)は1,612,425人で、前年に比べ66,497人(4.30%)の増となっており、調査開始以来一貫して増加している。人口総数に占める割合は13.90%で、10年前(9.38%)に比べ、4.52ポイント上昇している。また、老年人口に占める75歳以上の割合も10年前の38.01%から0.75ポイント上昇し、38.76%となっている。

(表5-1、表5-2、表6、図3、統計表第2表参照)

表5-1 年齢(3区分)別人口の推移(昭和62年～平成9年)

(単位 人、%)

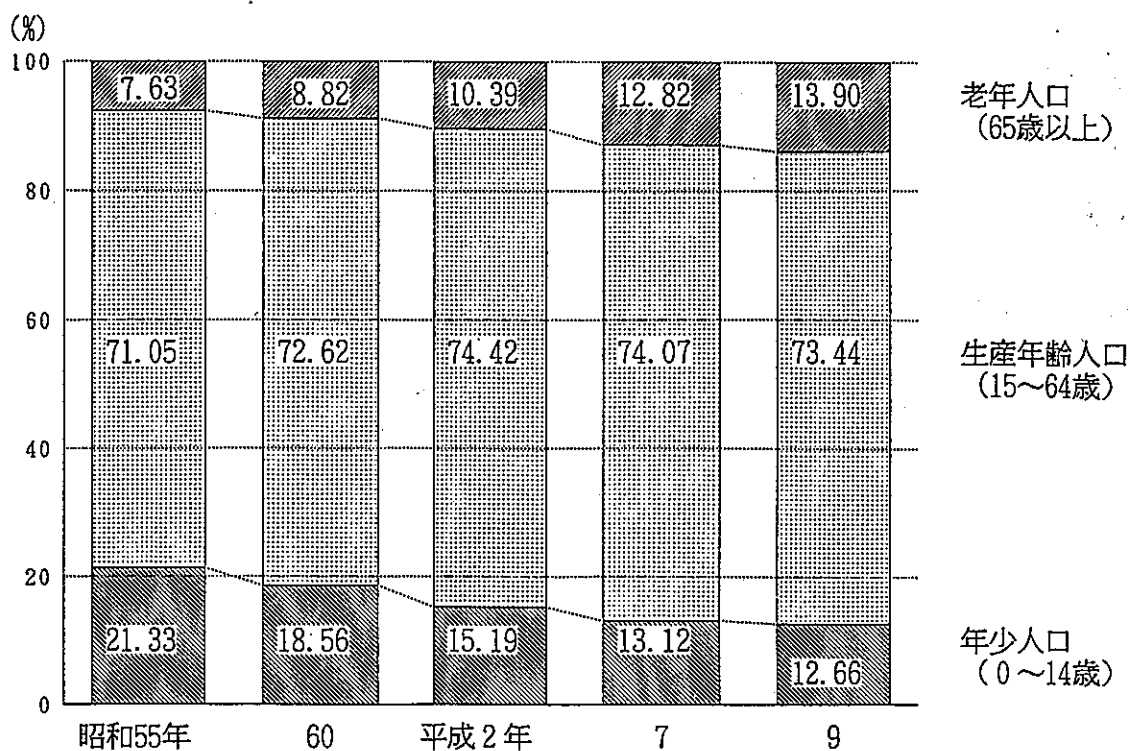
年次	年少人口(0～14歳)			生産年齢人口(15～64歳)			老年人口(65歳以上)		
	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率	人口	増減人口	増減率
昭和62年	2 027 876	△69 784	△3.33	8 611 850	89 721	1.05	1 101 144	38 639	3.64
63	1 945 822	△82 054	△4.05	8 658 037	46 187	0.54	1 136 479	35 335	3.21
64	1 858 201	△87 621	△4.50	8 687 938	29 901	0.35	1 172 552	36 073	3.17
平成2年	1 777 415	△80 786	△4.35	8 705 260	17 322	0.20	1 215 356	42 804	3.65
3	1 712 004	△65 411	△3.68	8 706 731	1 471	0.02	1 266 165	50 809	4.18
4	1 656 726	△55 278	△3.23	8 708 151	1 420	0.02	1 318 412	52 247	4.13
5	1 605 905	△50 821	△3.07	8 688 396	△19 755	△0.23	1 371 902	53 490	4.06
6	1 557 250	△48 655	△3.03	8 641 549	△46 847	△0.54	1 428 756	56 854	4.14
7	1 521 495	△35 755	△2.30	8 590 559	△50 990	△0.59	1 486 560	57 804	4.05
8	1 491 832	△29 663	△1.95	8 549 947	△40 612	△0.47	1 545 928	59 368	3.99
9	1 468 773	△23 059	△1.55	8 521 425	△28 522	△0.33	1 612 425	66 497	4.30

表5-2 年齢(2区分)別老年人口の推移(昭和62年~平成9年)

(単位 人、%)

年次	老年人口(65歳以上)		65~74歳		75歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
昭和62年	1 101 144	100.00	682 579	61.99	418 565	38.01
63	1 136 479	100.00	697 998	61.42	438 481	38.58
64	1 172 552	100.00	713 631	60.86	458 921	39.14
平成2年	1 215 356	100.00	733 960	60.39	481 396	39.61
3	1 266 165	100.00	764 710	60.40	501 455	39.60
4	1 318 412	100.00	798 462	60.56	519 950	39.44
5	1 371 902	100.00	832 918	60.71	538 984	39.29
6	1 428 756	100.00	874 569	61.21	554 187	38.79
7	1 486 560	100.00	912 449	61.38	574 111	38.62
8	1 545 928	100.00	947 935	61.32	597 993	38.68
9	1 612 425	100.00	987 465	61.24	624 960	38.76

図3 年齢(3区分)別人口(構成比)の推移(昭和55年~平成9年)



(2) 地域別比較

年齢3区分別人口の構成比を地域別にみると、年少人口の割合は、町村部(15.05%)が最も高く、次いで、市部(14.20%)、区部(11.91%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、市部(73.64%)が最も高く、次いで、区部(73.43%)、町村部(67.19%)の順となっている。

老年人口の割合は、町村部(17.75%)が最も高く、次いで、区部(14.66%)、市部(12.17%)の順となっており、特に、島部の町村(22.67%)が際立って高い。(表6参照)

表6 地域別、年齢(3区分)別人口

(単位 人、%)

地 域	総 数		年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		老年人口(65歳以上)	
	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比
総 数	11 602 642	100.00	1 468 773	12.66	8 521 425	73.44	1 612 425	13.90
区 部	7 846 823	100.00	934 822	11.91	5 761 682	73.43	1 150 311	14.66
市 部	3 662 487	100.00	519 902	14.20	2 697 030	73.64	445 544	12.17
町村部	93 332	100.00	14 049	15.05	62 713	67.19	16 570	17.75
郡部	61 238	100.00	9 148	14.94	42 796	69.88	9 294	15.18
島部	32 094	100.00	4 901	15.27	19 917	62.06	7 276	22.67

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

(3) 区市町村別比較

年齢3区分別人口の構成比を区市町村別(島部を除く。)にみると、年少人口の割合は、瑞穂町(17.01%)が最も高く、都全体(12.66%)に比べ4.35ポイント高くなっている。次いで、羽村市(16.80%)、青梅市(16.54%)の順となっており、最も低いのは渋谷区(9.19%)で、以下、豊島区(9.57%)、新宿区(9.73%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、多摩市(76.33%)が最も高く、都全体(73.44%)に比べ2.89ポイント高くなっている。次いで、狛江市(75.38%)、稲城市(75.12%)の順となっており、最も低いのは檜原村(58.22%)で、以下、奥多摩町(61.54%)、千代田区(68.79%)の順となっている。

老年人口の割合は、檜原村(30.89%)が最も高く、都全体(13.90%)に比べ16.99ポイント高くなっている。次いで、奥多摩町(27.37%)、台東区(19.58%)の順となっている。最も低いのは多摩市(8.45%)で、以下、稲城市(8.96%)、羽村市(9.18%)の順となっている。

年齢3区分別人口の構成比を島部の町村別にみると、年少人口の割合は、全ての町村において都全体(12.66%)を上回っている。生産年齢人口の割合は、全ての町村において都全体(73.44%)を下回っている。老年人口の割合は、小笠原村(9.28%)を除いた全ての町村において都全体(13.90%)を上回っている。(表7参照)

表7 区市町村別平均年齢及び年齢（3区分）別人口の割合

地 域	平 均 年 齢 (歳)	年齢(3区分) 別人口の割合(%)			地 域	平 均 年 齢 (歳)	年齢(3区分) 別人口の割合(%)		
		0~14歳	15~64歳	65歳以上			0~14歳	15~64歳	65歳以上
総 数	40.17	12.66	73.44	13.90	田 無 市	39.23	14.19	72.91	12.91
区 部	40.81	11.91	73.43	14.66	保 谷 市	39.92	13.65	71.91	14.44
千代田区	42.64	12.23	68.79	18.98	福 生 市	37.82	16.09	72.66	11.25
中央区	42.17	12.82	70.11	17.07	狛 江 市	39.85	11.49	75.38	13.12
港区	42.42	10.78	72.57	16.65	東 大 和 市	38.50	15.67	73.35	10.98
新宿区	42.32	9.73	73.58	16.69	清 瀬 市	40.01	14.18	72.53	13.30
文京区	42.24	10.87	71.54	17.59	東 久 留 米 市	38.93	14.75	73.78	11.48
台東区	44.53	10.10	70.32	19.58	武 蔵 村 山 市	38.13	15.92	73.70	10.38
墨田区	42.29	11.68	72.00	16.32	多 摩 市	36.90	15.21	76.33	8.45
江東区	40.97	12.22	74.44	13.33	稲 城 市	37.06	15.93	75.12	8.96
品川区	41.70	11.13	73.32	15.54	羽 村 市	36.67	16.80	74.02	9.18
目黒区	41.31	10.31	74.07	15.62	あ ぎ る 野 市	39.42	15.74	70.88	13.39
大田区	40.93	11.95	73.28	14.77	町 村 部	41.77	15.05	67.19	17.75
世田谷区	40.11	11.19	74.51	14.30	郡 部	40.40	14.94	69.88	15.18
渋谷区	42.00	9.19	74.60	16.21	瑞 穂 町	37.44	17.01	72.69	10.30
中野区	41.18	10.08	74.17	15.75	日 の 出 町	41.00	13.67	71.07	15.25
杉並区	40.65	10.53	74.23	15.24	檜 原 村	48.93	10.90	58.22	30.89
豊島区	42.36	9.57	73.50	16.93	奥 多 摩 町	47.14	11.09	61.54	27.37
北区	42.73	10.90	71.91	17.19	島 部	44.38	15.27	62.06	22.67
荒川区	43.01	11.67	70.60	17.73	大 島 支 庁	44.87	14.36	62.04	23.61
板橋区	40.06	12.51	73.92	13.57	大 島 町	44.93	13.47	63.13	23.40
練馬区	39.34	13.73	73.16	13.11	利 島 村	44.72	14.53	63.85	21.62
足立区	39.93	13.73	73.57	12.70	新 島 村	47.66	12.98	59.24	27.79
葛飾区	40.50	13.47	72.43	14.10	神 津 島 村	40.74	19.96	61.10	18.94
江戸川区	38.15	14.67	74.73	10.60	三 宅 支 庁	45.89	14.81	59.53	25.66
市 部	38.76	14.20	73.64	12.17	三 宅 村	46.29	14.55	59.38	26.07
八王子市	38.38	14.60	73.67	11.72	御 蔵 島 村	39.67	18.90	61.81	19.29
立川市	38.75	14.08	73.72	12.20	八 丈 支 庁	44.84	16.28	60.69	23.03
武蔵野市	40.14	11.86	73.20	14.94	八 丈 町	45.02	16.14	60.68	23.18
鷹野市	39.56	12.33	73.85	13.81	青 ケ 島 村	37.15	22.69	61.11	16.20
青梅市	38.22	16.54	71.17	12.29	小 笠 原 支 庁	36.33	18.12	72.61	9.28
府中市	38.45	14.11	73.79	12.10	小 笠 原 村	36.33	18.12	72.61	9.28
昭島市	38.76	15.49	72.16	12.35					
調布市	39.05	12.61	74.89	12.51					
町田市	39.10	13.99	74.34	11.67					
小金井市	38.83	13.51	73.18	13.31					
小平市	38.50	14.46	73.15	12.39					
日野市	38.50	13.48	74.90	11.63					
東村山市	39.93	14.21	71.92	13.87					
国分寺市	38.83	12.97	74.27	12.77					
国立市	38.70	13.66	73.67	12.67					

4 平均年齢

平均年齢は、40.2歳と前年に比べ 0.4歳高くなっている。これを男女別にみると、男子38.9歳、女子41.5歳と女子のほうが 2.6歳高くなっている。

地域別にみると町村部の41.8歳が最も高く、次いで、区部（40.8歳）、市部（38.8歳）の順となっており、いずれの地域でも上昇が続いている。

区市町村別にみると、檜原村の 48.93歳が最も高く、次いで、新島村(47.66歳)、奥多摩町(47.14歳)の順となっている。最も低いのは小笠原村(36.33歳)で、以下、羽村市(36.67歳)、多摩市(36.90歳)の順となっている。

区部のみでは台東区(44.53歳)が最も高く、次いで、荒川区(43.01歳)、北区(42.73歳)の順となっており、最も低いのは江戸川区(38.15歳)で、以下、練馬区(39.34歳)、足立区(39.93歳)の順となっている。
(表7、表8参照)

表8 地域別、男女別平均年齢の推移（昭和50年～平成9年）

(単位 歳)

地 域		50年	55年	60年	2年	5年	6年	7年	8年	9年
総 数	総 数	31.5	33.3	35.2	37.2	38.5	39.0	39.4	39.8	40.2
	区 部	32.0	34.0	35.9	37.9	39.2	39.7	40.1	40.5	40.8
	市 部	29.7	31.5	33.6	35.7	37.0	37.4	37.9	38.3	38.8
	町村部	33.5	35.2	36.6	38.6	39.8	40.3	40.7	41.1	41.8
	郡部	31.8	33.4	34.9	37.0	38.2	38.7	39.2	39.7	40.4
	島部	35.8	37.7	39.5	41.4	42.7	43.2	43.6	43.9	44.4
男	総 数	30.6	32.3	34.1	36.0	37.2	37.7	38.1	38.5	38.9
	区 部	31.0	32.9	34.6	36.6	37.9	38.3	38.7	39.1	39.4
	市 部	29.0	30.7	32.7	34.6	35.8	36.3	36.7	37.2	37.6
	町村部	32.5	34.2	35.5	37.3	38.5	38.9	39.4	39.8	40.3
	郡部	31.1	32.8	34.0	35.9	37.1	37.6	38.0	38.4	39.1
	島部	34.4	36.4	38.0	39.8	41.1	41.6	42.0	42.4	42.8
女	総 数	32.4	34.3	36.4	38.5	39.8	40.3	40.7	41.1	41.5
	区 部	33.0	35.1	37.2	39.3	40.5	41.0	41.4	41.8	42.2
	市 部	30.4	32.3	34.5	36.8	38.1	38.6	39.0	39.5	39.9
	町村部	34.5	36.1	37.8	39.9	41.1	41.6	42.1	42.5	43.2
	郡部	32.5	34.1	35.9	38.0	39.4	40.0	40.4	41.0	41.8
	島部	37.2	39.1	41.0	43.1	44.4	44.8	45.1	45.5	46.0

5 年齢構造指数

年少人口指数は17.2で、前年より 0.2ポイント低下し、老年人口指数は逆に18.9と0.8 ポイント上昇している。

年少人口指数は51年以降低下し続けているのに対し、老年人口指数は調査開始以来一貫して上昇を続けている。

従属人口指数は前年より0.7 ポイント上昇し、36.2となった。

老年化指数は前年より6.2 ポイント高い 109.8となった。60年(47.5)と比べ、62.3ポイントと急激に上昇している。

(表9、図4参照)

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口 (0~14歳)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

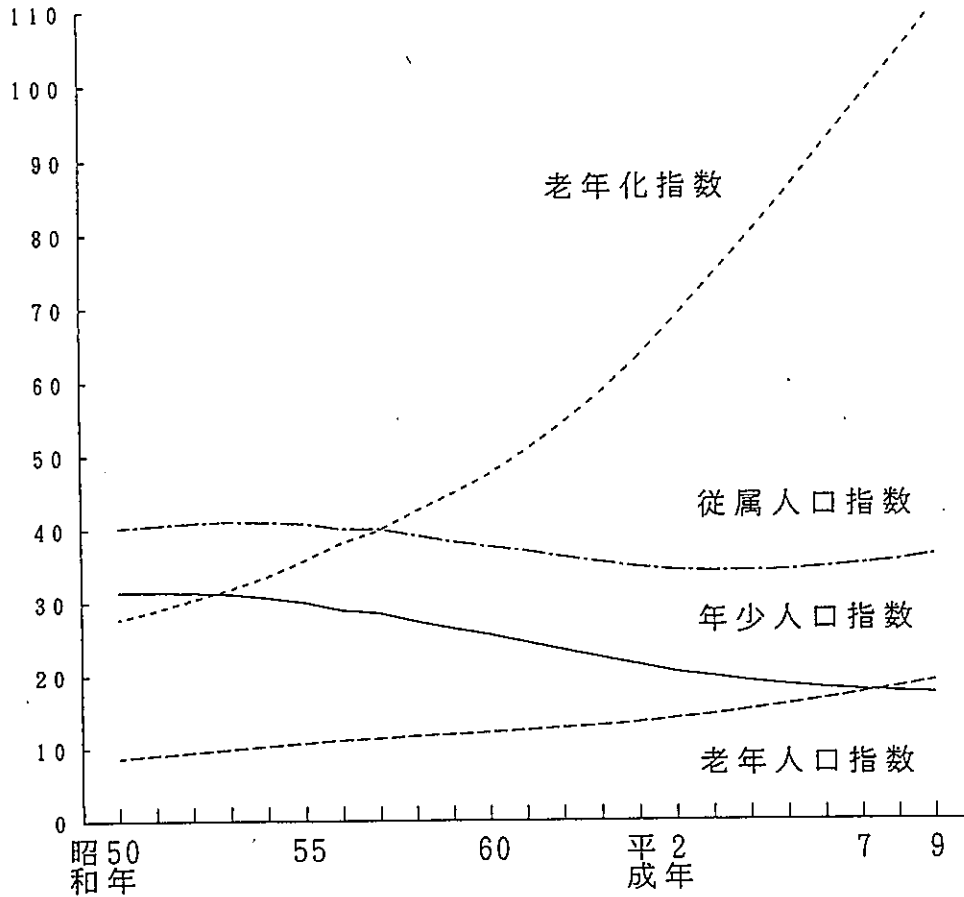
$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口 (0~14歳)} + \text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口 (65歳以上)}}{\text{年少人口 (0~14歳)}} \times 100$$

表9 年齢構造指数の推移 (昭和50年~平成9年)

指 数	50年	55年	60年	2年	5年	6年	7年	8年	9年
年少人口指数	31.5	30.0	25.6	20.4	18.5	18.0	17.7	17.4	17.2
老年人口指数	8.7	10.7	12.2	14.0	15.8	16.5	17.3	18.1	18.9
従属人口指数	40.2	40.8	37.7	34.4	34.3	34.6	35.0	35.5	36.2
老年化指数	27.7	35.8	47.5	68.4	85.4	91.7	97.7	103.6	109.8

図4 年齢構造指数の推移
(昭和50年～平成9年)



6 世帯数

世帯総数は 5,166,041世帯で前年に比べ62,500世帯(1.22%)の増加となった。1世帯当たりの人員は調査開始以来一貫して減少を続け、2.25人と前年に比べ0.02人少なくなっている。

これを地域別にみると、区部は 3,642,018世帯で、前年に比べ40,660世帯(1.13%)、市部は 1,488,332世帯で21,236世帯(1.45%)、町村部は35,691世帯で 604世帯(1.72%)とそれぞれ増加している。1世帯当たりの人員は、町村部の2.62人が最も多く、次いで、市部(2.46人)、区部(2.15人)の順となっている。

区市町村別にみると、世田谷区が373,486世帯で最も多く、次いで、大田区(291,774世帯)、練馬区(272,482世帯)の順となっており、最も少ないのは青ヶ島村(114世帯)で、以下、御蔵島村(134世帯)、利島村(154世帯)の順となっている。

1世帯当たりの人員は神津島村が3.04人で最も多く、次いで、日の出町(3.03人)、瑞穂町(2.98人)の順となっており、最も少ないのは小笠原村(1.86人)で、以下、渋谷区(1.87人)、青ヶ島村及び新宿区(1.89人)の順となっている。

(表10、表11、統計表第1表、第3表、第7表参照)

表10 地域別世帯数の推移（昭和62年～平成9年）

（単位 世帯、％）

年次	総数			区部			市部			町村部		
	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率
昭和62年	4 731 351	67 174	1.44	3 470 164	36 365	1.06	1 231 220	30 327	2.53	29 967	482	1.63
63	4 771 277	39 926	0.84	3 479 694	9 530	0.27	1 260 956	29 736	2.42	30 627	660	2.20
64	4 802 946	31 669	0.66	3 482 180	2 486	0.07	1 289 558	28 602	2.27	31 208	581	1.90
平成2年	4 842 053	39 107	0.81	3 489 665	7 485	0.21	1 320 538	30 980	2.40	31 850	642	2.06
3	4 890 903	48 850	1.01	3 508 572	18 907	0.54	1 349 916	29 378	2.22	32 415	565	1.77
4	4 947 560	56 657	1.16	3 533 490	24 918	0.71	1 381 149	31 233	2.31	32 921	506	1.56
5	4 994 278	46 718	0.94	3 551 171	17 681	0.50	1 409 694	28 545	2.07	33 413	492	1.49
6	5 023 585	29 307	0.59	3 559 036	7 865	0.22	1 430 530	20 836	1.48	34 019	606	1.81
7	5 054 473	30 888	0.61	3 573 202	14 166	0.40	1 446 762	16 232	1.13	34 509	490	1.44
8	5 103 541	49 068	0.97	3 601 358	28 156	0.79	1 467 096	20 334	1.41	35 087	578	1.67
9	5 166 041	62 500	1.22	3 642 018	40 660	1.13	1 488 332	21 236	1.45	35 691	604	1.72

表11 1世帯当たり人員の推移（昭和50年～平成9年）

（単位 人）

地域	50年	55年	60年	2年	5年	6年	7年	8年	9年
総数	2.68	2.62	2.52	2.42	2.34	2.31	2.29	2.27	2.25
区部	2.59	2.52	2.42	2.32	2.24	2.22	2.20	2.18	2.15
市部	2.96	2.92	2.81	2.66	2.56	2.53	2.51	2.49	2.46
町村部	3.40	3.22	3.08	2.91	2.78	2.74	2.71	2.67	2.62

図5-1 人口の年齢構成 (平成 9年 東京都)

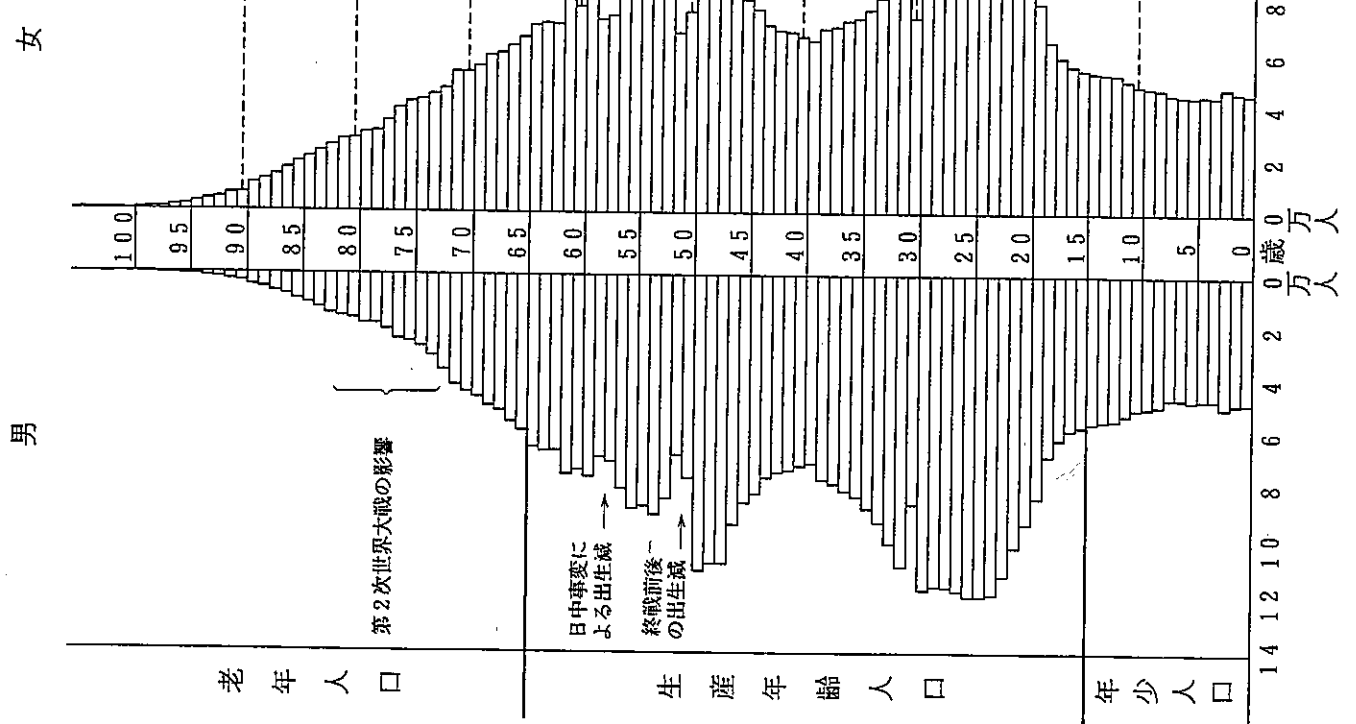


図5-2 人口の年齢構成比較 (昭和52年・平成 9年東京都)

